（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 東洋スチレン株式会社<br>五井工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 9 | 3 1 | 5 1 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

【対策１】について

・生産工程からの発生（揮散）を減少させました。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 東洋スチレン株式会社<br>五井工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

５　計画年度の削減率の実績値は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。
｛（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量｝×１００

（その三）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 新第一塩ビ　株式会社<br>千葉工場 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ５　１ | ５　４ | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

| 工場又は事業場の名称 | 新第一塩ビ　株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 富士電機株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 1 | 2 1 | 2 9 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 対策１について |
| 溶剤の低含有塗料による製品塗装の適用拡大 |
| 対策２について |
| 溶剤缶の揮発防止蓋の取り付けと励行（指導と実施状況の監視） |
| 対策３について |
| 上塗り残塗料の転用（中塗り塗料として使用率の向上、事業所設備の塗装） |
| 及びシンナー回収機による、廃溶剤からのシンナー回収 |
| 廃シンナーの回収（リサイクル事業者に売却） |
| |
| |
| |
| |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 富士電機株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 宮地エンジニアリング株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 1 | 2 1 | 2 2 | 3 4 | 5 1 | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 宮地エンジニアリング株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 日鉄住金ドラム株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 1 | 2 1 | 2 2 | 2 3 | 9 1 | 9 4 | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

| 工場又は事業場の名称 | 日鉄住金ドラム株式会社 千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| (B) | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 五井化成株式会社<br>本社工場 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 1 | 5 2 | 5 9 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| 対策について |
|---|
| 平成19年度5月、VOC吸収装置を設置。 |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 五井化成株式会社<br>本社工場 |
|---|---|

⑶ 自主的取組実績の評価

ア　⑴の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 日産化学工業（株）<br>袖ケ浦工場五井製造所 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 9 | 5 2 | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

１．下記工程で製造する製品で溶媒を回収・再利用することで購入量を減らしました。

原料→溶媒の1次置換→反応→溶媒の２次置換→調整→製品

（１次置換及び２次置換とも同じ溶媒を使用。）

従来「溶媒の２次置換」で留出される溶媒を廃棄していたが、この溶媒中の水分及び反応溶剤の残渣量を管理することで次バッチの１次置換に使用することが可能となりました。Ｈ２５年度も継続運用しました。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 日産化学工業（株）<br>袖ケ浦工場五井製造所 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

＜課題＞

当工場での製品構成が変化し、低揮発性の有機化合物の使用量が減少し高揮発性の有機化合物の取扱量が増加しています。高揮発性化合物の増加に伴いタンクの増設を実施したことで、タンクからの排出量が更に増加しました。

＜対策＞

水溶性有機溶媒を除去する吸収装置をＨ２３年度中に設置し、Ｈ２４年度以降は連続運用しています。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | ﾊﾞｲｵﾏｽ燃料供給有限責任事業組合 JBSL千葉ﾀｰﾐﾅﾙ |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 1 | | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

バイオマス燃料の製造・供給は、国の「京都議定書目標達成計画」の実現のための施策として、石油連盟が2010年度からバイオETBEを年間84万KL程度導入し、国のＣＯ2排出削減に貢献するための事業です。バイオETBEの使用は、カーボンニュートラル効果により地球温暖化対策には寄与しますが、バイオETBEが揮発性有機化合物に該当するために内部浮屋根式タンクに貯蔵しＶＯＣ排出量を削減する等の対策を実施しています。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | ﾊﾞｲｵﾏｽ燃料供給有限責任事業組合 JBSL千葉ﾀｰﾐﾅﾙ |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| Ⓒ | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

JBSL千葉ターミナルは、平成22年1月事業活動を開始し、主にバイオETBEの荷役、貯蔵及び石油各社への船転送を行なっています。千葉ターミナルにおける平成25年度バイオETBE使用量及びVOC排出量はいずれも計画の範囲内にありますが、石油各社への船転送量が平成24年度に較べて2割程度増えています。その結果、VOC削減率は平成24年度28％（目標達成率92％（評価A））に対し、平成25年度13％（目標達成率44％（評価C））となりました。

バイオマス燃料の製造・供給は、国の「京都議定書目標達成計画」実現のために石油連盟が取組んでいる事業ですが、バイオETBEが揮発性有機化合物（VOC）に該当するために、今後も内部浮屋根式タンクに貯蔵しVOC排出量を削減する等の対策を実施します。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | アズマックス株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 1 | 2 2 | 2 3 | 3 1 | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |

(その四)

| 工場又は事業場の名称 | アズマックス株式会社<br>千葉工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 興亜硝子株式会社<br>市川工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２　１ | ２　２ | ９　２ | ９　１ | １　９ | ９　９ | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

１９：塗料の転換検討の継続推進

９９：塗装ガン設定での技術向上による塗着効率の向上継続推進

(その四)

| 工場又は事業場の名称 | 興亜硝子株式会社<br>市川工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２２年度以前 | 平成２４年度 | 平成２５年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。） | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。） |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

(1)計画年度(H25年度)VOC排出量の削減

①H25年度の塗料の使用量は、対基準年度(160t)に対して実績使用量は184ｔでした。

H25年度計画(180t)に対して実績(184t)でほぼ計画を達成する事が出来ました。

②VOC排出量につきましては、H25年度計画(115t)に対して、実績(117t)でほぼ計画を達成することができました。

(2)原単位指標でのVOC削減管理：(VOC排出量/塗装通過本数)

H25年度の原単位指標では、計画20%削減に対して、実績22.6%で達成することが出来ましたが、更なる改善に努めます。

今後の方策として、生産効率の向上による塗料使用量の削減（塗装ガン設定での塗料吸着効率の向上、塗料余材の削減他）や塗料の転換検討等を継続して検討・推進し、VOCの削減に努めます。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 桜宮化学株式会社<br>東京工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 ｜ 3 | 9 ｜ 1 | 2 ｜ 1 | 3 ｜ 2 | ｜ | ｜ | ｜ | ｜ | ｜ | ｜ |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 桜宮化学株式会社<br>東京工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| (A) | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

｛（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量｝×１００

（その三）

高木工業（株）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | タカラスタンダード株式会社<br>千葉第一工場 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 1 | 2 2 | 3 4 | 5 3 | 9 1 | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

高木工業(株)

| 工場又は事業場の名称 | タカラスタンダード株式会社<br>千葉第一工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

｛（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量｝×１００

(その三)

高木工業(株)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | タカラスタンダード株式会社<br>千葉第二工場 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 ：1 | 2 ：2 | 3 ：4 | 5 ：3 | 9 ：1 | ： | ： | ： | ： | ： |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

高木工業(株)

| 工場又は事業場の名称 | タカラスタンダード株式会社<br>千葉第二工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社　日商グラビア |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １　２ | ２　１ | ３　１ | ５　４ | ５　５ | ９　１ | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社　日商グラビア |
|---|---|

⑶ 自主的取組実績の評価

ア　⑴の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２２年度以前 | 平成２３年度 | 平成２５年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

| |
|---|
| |

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 日新製鋼株式会社<br>市川製造所 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 1 | 5 1 | 5 6 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 日新製鋼株式会社<br>市川製造所 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社日立産機システム<br>習志野事業所 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １　１ | ２　２ | ２　９ | ９　４ | ９　９ | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| 対策３について |
| 塗料調合時のビニール袋保護による容器の洗浄回数低減化を行いました。 |
| 対策５について |
| ワニス・溶剤を多量に使用する製品の製造を終了しました。 |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |
| |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社日立産機システム<br>習志野事業所 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

機化合物の量について有効数字２桁で記載すること（１キログラム未満の場合は、小数点以下第２位を四捨五入して得た数値を記載すること。）。

5　計画年度の削減率の実績値は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。

｛（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量｝×１００

（その三）

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 株式会社パールマネキン<br>パールデポ関東流通センター |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 1 | 2 2 | 2 3 | 2 9 | 3 3 | 5 2 | 9 1 | 9 4 | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

・塗装技術の改善による抑制。

ガン圧力・パターン調整・塗面との距離・ガン操作などで塗料の使用量を削減。

・同色系調達による抑制。

下塗りと上塗りとが同色系の物を調達することで塗膜を薄化し、使用量を削減。

・透ける塗料の作業工程に工夫を加える。

不透明な近似色下塗りなどで、塗装回数の削減を図り、塗料の使用量を抑える。

・洗浄用シンナーの廃棄を抑制。

色の薄い物から濃い物への生産順位にて洗浄回数と量を削減。

洗浄用シンナーを通常用シンナーへ変えることで洗浄後塗料へ戻す。

・返却商品への養生の徹底により塗料を使用せず出荷する割合を増やす。

・エコラッカーの使用比率の増大により、有害物質の排出を抑制する。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社パールマネキン<br>パールデポ関東流通センター |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

・業界の特性～リース物であるため、商品回転が宿命～という事情により、作業性を勘案すると、環境負荷の少ない水溶性の塗料・弱溶剤性の塗料への移行の難しさが解決できない問題となっております。

・トルエン・キシレン・鉛を使用していない塗料（エコラッカー）を平成２３年度より一部導入いたしました。密着・乾燥速度・色相など、従来品と対比すると若干差がありますので、前処理・温度・配合など調整しながら、徐々に使用比率を増やしており、２４年度にはVOC排出量の大幅削減に成功。以降も引き続き推進しているところです。

※なお、塗装業務を始めたばかりの平成１８年度〔基準年度〕は初動期ということもあり、生産量が未だ少なかったことに削減の困難さが起因しています。その後、会社の成長に応じて生産を上げながらも、毎年の削減目標はほぼ達成できております。

今後も環境負荷軽減のため、具体的方策のもと、削減に尽力してまいります。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 京成自動車工業株式会社 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 1 | 2 1 | 2 2 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 京成自動車工業株式会社 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| Ⓐ | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 東邦シートフレーム株式会社<br>八千代工場 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 1 | 2 2 | 9 1 | 5 6 | 5 4 | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

(その四)

| 工場又は事業場の名称 | 東邦シートフレーム株式会社<br>八千代工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２５年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| (C) | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

平成25年9月より、脱臭装置（新設）の稼動を計画していたが、工事が送れ3月より稼動を開始した。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 丸善株式会社<br>京葉油槽所 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 3 1 | 5 1 | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 丸善株式会社<br>京葉油槽所 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２２年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社　竹中製作所<br>本社工場 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ２　１ | ２　２ | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社　竹中製作所<br>本社工場 |
|---|---|

⑶ 自主的取組実績の評価

ア　⑴の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | アズマプレコート株式会社<br>市川工場 |
|---|---|

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 2 | 2 3 | 9 1 | 9 2 | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

| |
|---|
| |

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | アズマプレコート株式会社<br>市川工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| (B) | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

省エネと反比例の関係がありバランスをとるのに試行錯誤しています。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 神東塗料株式会社<br>千葉事業所 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 1 | 1 2 | 1 3 | 2 1 | 2 3 | 9 1 | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 神東塗料株式会社<br>千葉事業所 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| (B) | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

これは、2013年度の生産量が上がり、VOC使用量が対2012年度比11%増となったためと考えられる。VOC使用量に対する排出量の割合は2012年度　0.25%、2013年度　0.23%と変わっていないので、生産現場としては、今後も現状を維持できる様に努めいていく。

会社としては、水系塗料の比率を高めることで、VOCの使用量低減に努力する。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

５　計画年度の削減率の実績値は、次の式により算出される数値を有効数字２桁で記載すること。
｛（基準年度の排出等の量－計画年度の排出等の量）／基準年度の排出等の量｝×１００

(その三)

| | |
|---|---|
| 工場又は事業場の名称 | 東洋合成工業株式会社<br>高浜油槽所 |

**（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策**

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ３　１ | | | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 東洋合成工業株式会社<br>高浜油槽所 |
|---|---|

⑶ 自主的取組実績の評価

ア　⑴の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

使用量が15%強増加したことに供なってVOC排出量も同様に増加してしまった。

使用量を減少させることが困難なため、平成26年度は呼吸量を削減するようにﾀﾝｸの塗装色を白色の変更へ進めていく。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

（その三）

| 工場又は事業場の名称 | 東洋合成工業株式会社<br>市川工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| １９ | ３２ | ４９ | ５１ | ５２ | ４９ | ３９ | ５２ | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策１：＊ベンゼンの使用を廃止した。

対策２：＊蒸留装置の第二凝縮器（アフターコンデンサー）にコールドとラップを2基増設し、
ＶＯＣをより効率よく捕捉するようにした。

＊蒸留装置＃２３００のコールドトラップの位置の変更。

＊蒸留装置＃３４００の第２コンデンサー設置。（ベーパーの削減）

＊３系チラー装置全体の負荷の見直し、負荷の分散を行った。

対策３：＊屋外タンクにベーパーリターン配管を設置した。

＊ＴＫ-６２３タンクの遮温塗装を行った。

＊ＴＫ-６２２タンクについても遮温塗装を行った。

対策４：屋外タンクのブリーザーバルブ及びエステル中和釜のベントから排出されるガスを吸着除去するため、遊休としていたＰＳＡを再稼動した。

対策５：アルデヒド製造時のオフガス対策としてディップ式吸収塔を設置した。

対策６：屋外タンクにベーパーリターン配管を設置した。

対策７：H25年度、廃液ﾄﾞﾗﾑに局所排気ﾀﾞｸﾄを設置した。

対策８：H25年度、各種ｽｸﾗﾊﾞｰ内の封水pHを11以上に管理した。

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 東洋合成工業株式会社<br>市川工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２３年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

＊基準年度に対して30%削減するという目標については、余裕をもって達成することができた。

２２年度は生産量が増えた為、排出等の量が19,000ｋｇと計画値を達成することが出来なかった。

しかし、２３年度は２２年度と生産量はほぼ同じだったが、ベーパーリターン配管付屋外タンクの使用頻度が増えた為、排出量が抑えることが出来た。

＊ベーパーリターン配管付屋外タンクの使用率　２２年度：７８％　２４年度：８３％

２３年度：８１％　２５年度：７１％

＊使用量は計画年度とほぼ同等の量を取り扱ったが、取り扱い品目数で1.1倍、さらに揮発性の高いメタノール、アセトンに関しては1.5倍近く増えている。この為、充填作業の増加及び排出量の増加が考えられる。

＊対策：①屋外ドラム充填施設に局所排気装置の設置②ＰＳＡ装置の脱臭液の変更を計画している。

＊H26年度、引き続きPSA装置の脱臭液変更を計画、その他一部の屋外ﾀﾝｸにｷｰﾊﾟｰﾌﾞﾘｰｻﾞｰを設置予定。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。

(その三)

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社淀川製鋼所<br>市川工場 |
|---|---|

（２）揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

（１）の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

| 対策 1 | 対策 2 | 対策 3 | 対策 4 | 対策 5 | 対策 6 | 対策 7 | 対策 8 | 対策 9 | 対策10 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 2 | 5 4 | 5 6 | | | | | | | |

その他（１９，２９，３９，４９，５９，９９）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策１

塗装方法の見直しによる希釈シンナーの低減の実施

対策２

直接燃焼式除去装置の運転、蓄熱式除去装置の運転

（その四）

| 工場又は事業場の名称 | 株式会社淀川製鋼所<br>市川工場 |
|---|---|

(3) 自主的取組実績の評価

ア　(1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

| 評価 | 計画年度の属する年度 | | |
|---|---|---|---|
| | 平成２１年度以前 | 平成２２年度 | 平成２４年度以降 |
| A | 目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。 | 削減目標を達成できた。 | 計画年度の目標を達成できた。 |
| B | 目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。 | 削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 | 計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。 |
| C | 目標年度の目標の達成に困難な課題がある。 | 削減目標の達成に困難な課題がある。 | 計画年度の目標の達成に困難な課題がある。 |

備考　評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ　課題と対策

蓄熱式接燃焼式によるＶＯＣ処理を導入により、使用量は増加しましたが排出量は昨年並みとなりました。

運転効率向上の実施と、もう１基について蓄熱式の導入を検討中です。

備考　この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がＣの場合は、必ず記載すること。